

平成27年3月期 決算の概要

長岡医療と福祉の里
社会福祉法人 長岡福祉協会

1 26年度の事業展開

長岡福祉協会

- 26年3月 こぶし園の本体特養を長岡市深沢町から喜多町に移転するとともに30床増床
 これをもって大規模特養を解体し、地域に分散させる事業が完了
- 26年4月 桜花園内に障害者の相談事業所を開設
- 26年5月 千葉県柏市に東大・UR等と連携し「福祉プラザとよきだい」(訪問介護・小規模多機能ほか)を開設
- ・ 26年6月 神奈川県藤沢市に開設予定であった特養を建設費用の高騰から撤回
- 26年9月 東京都中央区の公共施設内に「ケアサポートセンター十思」(地域密着型特養・小規模多機能)を開設
- 26年12月 長岡療育園の大規模増改築工事が完成
- 27年3月 施設毎に行っていた会計事務と資金管理を本部集中

2 事業収支

長岡福祉協会

(単位:百万円)

	25年度	26年度	前期比	
事業活動収入	12,064	12,773	709	収入は新規事業の立上げ等により、前期比+7億円(+5.9%)
事業活動支出	11,871	12,357	486	支出は人件費・物件費の見直しにより、前期比+4.8億円(+4.1%)に抑制
人件費	7,730	7,999	269	
事務費・事業費	3,308	3,470	162	
減価償却費	763	813	50	
事業活動収支差額	193	416	223	支出の伸びを抑えたことにより、経常収支差額は前期比+2.2億円の2.9億円に増加
経常収支差額	70	290	220	
特別収支差額	▲ 3	▲ 587	▲ 584	
当期活動収支差額	67	▲ 296	▲ 363	賞与引当金の新規設定等により、当期活動収支差額は▲3億円と赤字を計上
外部借入金残高	7,819	6,242	▲ 1,577	預金相殺により外部借入金を15億円削減

3 事業活動収入(事業種別内訳)

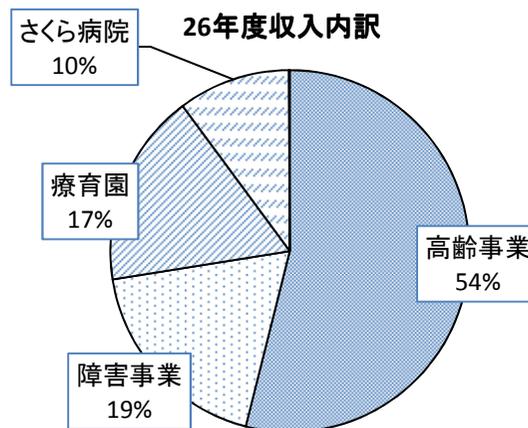
長岡福祉協会

(単位:百万円)

	25年度	26年度	前期比	増減率
高齢事業	6,347	6,891	544	8.6%
障害事業	2,230	2,368	138	6.2%
療育園	2,189	2,211	22	1.0%
さくら病院	1,280	1,294	14	1.1%
本部	17	9	▲ 8	▲ 47.1%
合計	12,064	12,773	709	5.9%

首都圏新事業(つきしま・十思・とよきだ
い他)の立上げ、こぶし園の移転完了に
よる本格稼働が寄与

障害事業は桜花園・はつらつ太陽をはじ
めすべての施設が順調に推移



4 事業活動収入(地区別内訳)

長岡福祉協会

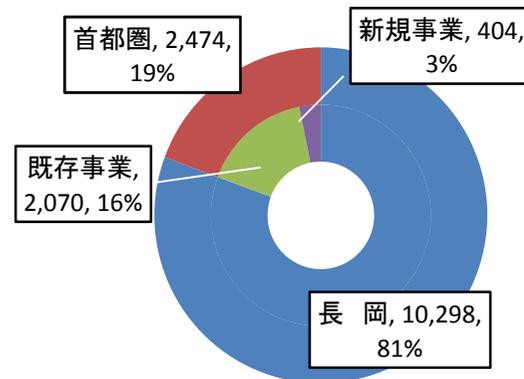
(単位:百万円)

	25年度	26年度	前期比	増減率
長岡	9,986	10,298	312	3.1%
首都圏	2,078	2,474	396	19.1%
うち新規事業	72	404	332	461.1%
合計	12,064	12,773	709	5.9%

<25年度以降の新規事業>

- 25/4開設 訪問介護さくら川
- 25/11開設 ケアサポート白金(訪問介護)
- 25/11開設 つきしま(地域密着型特養)
- 26/5開設 とよきだい(訪問介護・小規模多機能他)
- 26/9開設 十思(地域密着型特養・小規模多機能)

26年度地域別内訳



5 経常収支差額(事業種別内訳)

長岡福祉協会

(単位:百万円)

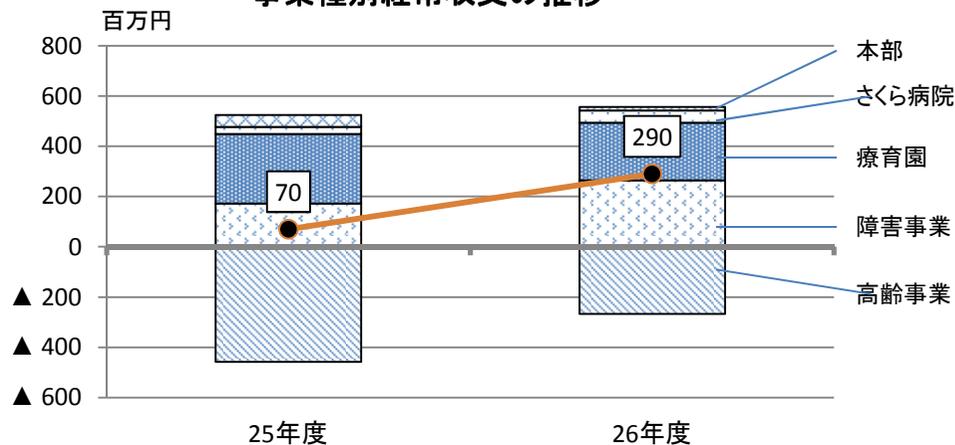
	25年度	26年度	前期比
高齢事業	▲ 456	▲ 266	190
障害事業	174	266	92
療育園	276	229	▲ 47
さくら病院	28	48	20
本部	48	14	▲ 34
合計	70	290	220

高齢事業は既存事業の経営改善により収支は良化しつつあるものの、新規事業の立上げもあり、▲2.6億円の赤字

障害事業は事業収入の伸びにより黒字幅が拡大し、高齢事業の赤字をカバー

療育園は施設の増改築により減価償却費が増え、黒字幅は減少

事業種別経常収支の推移



6 経常収支差額(高齢事業)

長岡福祉協会

(単位:百万円)

	25年度	26年度	前期比	
首都圏新事業	▲ 75	▲ 137	▲ 62	→ つきしま・十思・とよきだい・訪問介護さくら川
首都圏既存事業	▲ 175	▲ 77	98	→ さくらの園・ばらの園・サポートセンター広沢
長岡既存事業	▲ 206	▲ 52	154	→ こぶし園・特養おぢや・ケアセンター千秋・サン プラザ・ぶんすい・ケアハウス西長岡・ケアハ ウス小千谷
合 計	▲ 456	▲ 266	190	

・高齢事業は長岡、首都圏ともに赤字が継続しているが、既存施設は経費削減により赤字幅は縮小している。

・首都圏新事業は26年度中の立上げ施設もあり、フル稼働に至らず、人件費をはじめ支出が先行していることから赤字幅が拡大。

7 職員数と人件費

長岡福祉協会

(単位:百万円、人)

	25年度			26年度			前期比		
	職員数(人)	人件費	人件費率	職員数(人)	人件費	人件費率	職員数(人)	人件費	人件費率
高齢事業	1,050	4,232	68.5%	1,073	4,504	67.0%	23	272	▲ 1.5%
障害事業	305	1,190	57.0%	303	1,231	54.9%	▲ 2	41	▲ 2.2%
療育園	277	1,393	64.2%	276	1,363	62.2%	▲ 1	▲ 30	▲ 2.0%
さくら病院	150	818	64.3%	151	818	63.6%	1	0	▲ 0.7%
本部	16	97		17	83		1	▲ 14	
合計	1,798	7,730	65.9%	1,820	7,999	64.2%	22	269	▲ 1.7%

* 職員数は年度末時点の常勤換算

* 人件費率は人件費／事業活動収入(国庫補助金取崩額除く)

・ 職員数は新規事業の開設もあり高齢事業において増員となり、人件費も法人全体で前期比+2.7億円増加したが、事業活動収入の増加により、人件費率は前期比▲1.7ポイントの64.2%となった

8 財務バランス

長岡福祉協会

(単位:百万円)

	資 産			負 債 ・ 純 資 産			
	25年度	26年度	増減		25年度	26年度	増減
流動資産	6,298	4,512	▲ 1,786	流動負債・固定負債	10,766	14,686	3,920
現・預金	3,769	2,289	▲ 1,480	借入金	9,884	13,343	3,459
その他	2,529	2,223	▲ 306	うち外部借入	7,819	6,242	▲ 1,577
固定資産	17,897	22,999	5,102	うち内部借入	2,065	7,101	5,036
土地・建物	13,789	14,723	934	賞与引当金	0	534	534
長期貸付金	1,910	7,108	5,198	その他	882	809	▲ 73
その他	2,198	1,168	▲ 1,030	純資産	13,429	12,826	▲ 603
合 計	24,195	27,512	3,317	合 計	24,195	27,512	3,317

- ・施設勘定→本部勘定への余剰資金貸借により、外部金融機関からの借入金を内部借入金に振替(預金と外部借入の減少、長期貸付金と内部借入の増加)
- ・長岡療育園の増築工事完成により、建設仮勘定→土地・建物が増加
- ・未対応であった賞与引当金を新たに設定

9 今後の課題

- 高齢事業の収支改善
高齢事業の赤字幅は縮小しているものの、27年度からは介護報酬の引下げの影響が出てくることから、業務の効率化を含むさらなる収支改善の検討が必要である。
- 介護・看護職員の確保
首都圏のみならず地方においても介護・看護職員の確保は難しくなっており、今後の新規事業展開のネックとなるのみならず、既存施設においても職員不足の顕在化から労働強化やサービスの質の低下が懸念されかねない状況である。
- 幹部職員の育成
27年度からスタートした3年間の中期経営期間中は、新たな施設等の設備投資は行わず、この間に経営体力をつけることにより次の飛躍につなげる期間と位置付けている。
この期間中に次のステップの発展を支える幹部職員を育成することが急務である。
- グループ内の連携強化
我が国の福祉政策は地域包括ケアシステムの構築による在宅医療・介護を中心とした方向性が打ち出され、その実現に向けて動き始めている。
今後、当法人がこのような社会のニーズに対応し存在感を打ち出していくためには、特に長岡医療と福祉の里グループ内の医療法人との連携強化が欠かせないものとなる。